

先進地を研修（委員会研修報告）

文教厚生

日程 10月4～6日まで
研修目的 介護保険・生涯学習・学校教育

◎石川県加賀市

人口72643人、高齢化率26・7%。要介護認定者3335人。介護保険事業は郊外にあった大規模特養ホームを三分割して本体施設とサテライト型施設として、市街地へ移転を行っている。
市内には日常生活圏域が7圏域あり、各圏域に一箇所ずつ整備される予定。今後は新規の大規模施設は整備せず、街中に小規模多機能型居宅介護を中心とした地域密着型サービス事業所の整備をすすめ、日常生活圏ごとの包括ケアを目指している。

施設は街中の既存の古民家や空き店舗等を再利用されたものもある。

◎富山県小矢部市

人口30203人。高齢化率29・6%。要介護認定者数1424人。

小矢部市保健福祉センターを視察。



小矢部市保健福祉センター

経済建設

日程 11月15日～17日
研修先 徳島県上勝町、鳴門市、兵庫県加東市
研修目的 地場産業振興・小水力発電・からいもブランド化・町づくり交付金事業

◎上勝町

（人口約2000人）

高齢化率50%の中で木の葉（もみじ、なんてん等）を採取して販売する事業（いろいろり）を中心に年商2・6億円を売上げている。谷間の町で収入を得る手段を見出した着眼点と実行力に当町も参考にしたい。



小水力発電実験



上勝町 葉っぱビジネス研修

総務

日程 11月28日～30日
研修先 福井県地方税滞納整理機構・福井県鯖江市・京都府京都市
研修目的 納税推進・男女共同参画・災害対策

◎福井県地方税滞納整理機構

県と17市町で構成され、税の収納率の向上、差押県総務部長を委員長とする運営委員会、県税務課長を幹事長とする幹事会、事務局は、県納税推進室が行っている。

実際の徴収は、共同徴収チームを3地区に編成し、県職員を1名ずつリーダーとして配置、国税OBをアドバイザーとしておき、市町



名前の通り保健センター、福祉センター、ふれあいセンター、訪問介護ステーション、児童センターなどが入居し、きらりと光る健康福祉都市の拠点という役目を担っている。平成8年よりコミュニティバスを運行し、介護保険をうけていない人が、バス利用の難しい人へはチーム制で乗り合いタクシーもある。

◎富山県高岡市

人口176,792人。高岡市生涯学習センターを視察。

高岡駅前の再開発事業が実施されたもので、総事業費91億800万円で、平成16年4月開設。地下1階、地上12階建てで、市、県、民間の施設がある。県の施設の中に生涯学習校があり、富山県立志貴野高校定時制定員330人で、一般も30人受け入れている。市の施設の中に中央図書館、生涯学習センター、男女平等推進センターがあり、民間施設にホテル、飲食施設等があり、開設当初から指定管理者制度を取り入れている。

◎富山県富山市

人口41,704人。富山市立中央小学校、3校を統合し、平成20年4月開校。PFI導入により、学校建設、鉄筋コンクリート4階建て、人工芝グラウンド、ロングパイル構造になっており、天然芝に近いゴムチップはカラー。屋根開閉式屋上プールは、屋根のガラスがUV加工されていて、床は昇降式でプールとして使用しないときは人工芝を敷き、多目的室として利用。屋上には太陽光発電5キロワット、風力発電設備300ワットを3台、太陽光集熱パネル、ここであるソーラー温水器貯湯量200リットルは、2階特別支援教室に隣接するシャワー室で利用。



中央小学校（新築）

◎鳴門市

（人口約6万2000人）全国的に有名な『なると金時』は平均単価320円で大津甘諸の約2倍で販売されている。農家の99%がJAの甘諸部会に入り計画出荷、農薬制限等を行っている。大津町としても組織的な統一が必要で、市場、消費者との連帯強化を図るべきと感じた。



箱もブランド化



なると金時生産農家

◎加東市

（人口約3万9000人）平成18年に3町が合併し市街化区域の線引きのある町とない町があったため少し混乱が続いている。まちづくり交付金事業で駅前周辺整備事業を19年に終了し、待合室を兼ねた交流館が建てられていた。交流館の管理は地元自治会に委託している。



駅前前ドーム状の待合室

◎鯖江市（人口約6万8000人）

「夢みらい館・さばえ」は、平成19年から夢みらいWeが指定管理者として運営し、市民の手による男女共同参画事業が行われていた。主な事業として、啓発推進、研修会、講習会の開催、情報の発信、連携事業などが行われていた。各審議会等の女性委員比率を35%以上に目標を定め、様々な分野での女性の登用が図られていた。参加団体の23名の理事をはじめ、組織がしっかりとおり、自主サークルの多さと広さを感じた。



◎京都市（人口約147万3000人）

京都市民防災センターは、災害の恐ろしさを忘れないために、万一災害が起きても被害を最小限に押さえるための知識と行動力を身につけるために開設された。地震強風映像体験室、防災訓練室、避難体験室、通信訓練コーナー、3D画面による京都大震災、3Dサウンド土砂災害の恐怖などがあり、見る、聴く、触れる、感じる防災体験ができるよう工夫されており、学童から一般市民に至るまで、防災に役立つ施設であることを感じた。



地震体験室